一般社団法人　日本医療薬学会　第 81 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 81 回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長　池田　龍二
（宮崎大学医学部附属病院　教授・薬剤部長）

令和 3 年 8 月 7 日（土）に WEB 開催（Live 配信）にて、第 81 回医療薬学公開シンポジウムを開催した（主催：一般社団法人日本医療薬学会、共催：宮崎県病院薬剤師会、宮崎県薬剤師会）。本シンポジウムでは、テーマを「がん薬物療法・緩和医療における薬剤師の役割　～広がる薬剤師の多職種連携・病診薬連携～」と題して、基調講演 1 演題、特別講演 1 演題、5 つの施設より地域連携や各施設の取り組みを紹介するシンポジウムを実施した。参加者は、255 名と県内外から薬剤師をはじめととする多くの医療関係者の参加があった。

初めに、基調講演として、鹿児島大学病院 教授・薬剤部長 武田泰生先生より、「がん薬物治療管理の現状と展望　～薬剤師としていかに関わるか～」と題して、分子標的治療薬の開発の経緯、がんゲノム医療への展開から今後求められる薬剤師職能、多職種でつなぐ薬物薬物治療管理についてご講演いただいた。シンポジウムでは、宮崎大学医学部附属病院　副薬剤部長　関屋裕史先生に「病診薬連携による抗がん薬副作用マネジメントの有用性」との題でトレーシングレポートやテレフォンフォローアップを活用した病診薬連携の重要性について紹介いただいた。福岡徳洲会病院　薬剤部長　渡邊裕之先生からは、「多施設連携による抗がん薬曝露対策の推進　～SMILES の取り組み～」との題で、抗がん薬の暴露対策の施設間の情報共有の重要性についてご講演いただいた。大分大学医学部附属病院　副薬剤部長　龍田涼佑先生には、「がんと地域連携～連携充実加算を中心に～」との題で、外来化学療法の現状と質向上のための取り組みを紹介いただき、連携充実加算や薬薬連携について具体的に紹介いただき、患者へ最善な医療を提供するためには、医療機関と保険薬局間でさらなる情報共有が必要であることをご紹介いただいた。都城市北諸県郡薬剤師会　会長　落合晋介先生からは、「保険薬局薬剤師に求められる役割」と題し、ハイリスク薬の服薬管理、副作用や支持療法の管理など市民の健康な生活の確保が保険薬局薬剤師に求められている旨の講演をいただいた。熊本大学大学院生命科学研究部　臨床薬理学分野准教授　近藤悠希先生には、「薬局での経験を活かした病薬学連携・育薬研究」と題し、薬剤師の腎機能を考慮した医薬品適正使用と医療費適正化への貢献に関してご紹介いただいた。特別講演では、大垣市民病院　薬剤部長　吉村知哲先生に「がんチーム医療において薬剤師力を発揮するための戦略」と題し、薬剤師力を発揮するためには、「チーム制」、「見える化」、「意識改革」が重要で、「やりがいのある職場・成果が上がる組織」を目指し、薬剤部職員に得られる達成感や喜びの重要性、薬剤師育成についてご講演をいただいた。WEB での開催であったが活発な討議が行われ、多職種連携・病診薬連携に対する薬剤師の役割や専門性を持った薬剤師育成について考える良い機会となった。

最後に今回のシンポジウム開催にあたり、講演いただいた先生方、座長の労をお取りいただいた先生方、企画・運営にご尽力いただいた先生方、日本医療薬学会事務局の方々に深く感謝申し上げます。